




4 くらしやすさを高める

59億円 (対前年 +1億円)

- 世界的な課題となっている海洋プラスチックごみ対策、ポイ捨てや不法投棄の抑止が必要
- 将来にわたる上下水道施設の持続的な事業運営のため、広域化など効率的な運用が必要
- 高齢化に対応する介護人材の不足や発達障害者等の相談件数の増加への対応が必要

生活環境や福祉サービスの充実による「くらしやすさ」を確保

<p>快適な生活環境の実現</p>	<p>17.5億円 (対前年▲4.9億円)</p> <p> 水道施設の計画的な整備 (▲5.2億円)  海洋プラスチックごみ対策 (+0.3億円)</p>	<ol style="list-style-type: none">1 海洋プラスチックごみ対策 (P54)2 安心・安全な水を供給するための水道の基盤強化 (P55)3 持続可能な污水处理の推進 (P56)
<p>支え合う福祉の充実</p>	<p>41.1億円 (対前年+5.5億円)</p> <p> 老人福祉施設整備 (+5.3億円)</p>	<ol style="list-style-type: none">4 必要な介護サービス確保に向けた取組を計画的に推進5 介護サービス等の担い手確保の支援 (P57)6 県発達障害者支援センターの相談体制を強化 (P58)7 ギャンブルやスマホなど様々な依存症に対し、学校での予防教育や相談・治療・回復を途切れなく支援 (P10,59)

4 くらしやすさを高める

◇新規・拡充
◇継続

・金額単位のないものは千円単位
・()内は昨年度当初予算額

快適な生活環境の実現

重点事項

- ◇海洋プラスチックごみ対策 35,534 (5,993) P54
海洋プラスチックごみ対策を強力に推進するため、ポイ捨てを防止する条例の制定、監視体制等を強化
- ◇水道の基盤強化に向けた取組 352,527 (872,794) P55
将来にわたり安全な水を供給するため、水道の基盤強化に向けた取組を支援
- ◇持続可能な汚水処理の推進 15,000 (-) P56
将来にわたる持続的な汚水処理のため、広域化・共同化による汚水処理の基盤強化を推進
- ◇合併処理浄化槽の転換促進 310,261 (354,721)
単独処理浄化槽等から合併処理浄化槽への転換を促進するため、本体設置費、転換に伴う配管設備費、単独処理浄化槽撤去費を助成
- ◇消費者被害防止対策の強化 5,989 (4,693)
高齢者等の消費者被害を防止するため、地域の見守りネットワーク構築の支援や悪質事案や広域事案への対応能力を強化

支え合う福祉の充実

1. 高齢者福祉の推進

- ◇高齢者の安心を確保する基盤づくり 13.8億円 (8.5億円)
介護が必要な高齢者の増加に対応するため、計画的に施設の整備を図るとともに、高齢者が再び自立した生活を送れるよう「自立支援型ケアマネジメント」を推進
- ◇介護人材の確保に向けた取組の推進
165,290(☎補正140,000) (181,979) P57
高齢化の進展により需要が高まっている介護サービスの担い手確保に向けた取組を引き続き推進

- ◇わかやま元気シニア生きがいバンク【再掲】 9,641 (9,734)
80歳現役社会を実現するため、社会参加を希望する高齢者と活用したい団体を登録する「わかやま元気シニア生きがいバンク」の活動を推進

2. 障害者福祉の推進

- ◇発達障害者への地域支援強化 45,535 (28,888) P58
県発達障害者支援センター「ポラリス」の相談体制を充実し、紀南地域に「相談室」を開設するとともに、関係機関と連携した訪問による相談支援を充実
- ◇障害福祉サービス提供基盤の整備
225,089(☎補正203,000) (192,193)
障害福祉サービスの充実を図るため、サービス事業所の施設整備等を支援
- ◇障害者芸術文化活動推進 25,452 (10,321)
2021年度全国障害者芸術・文化祭に向けて、障害者作品展や研修会の開催など、障害者芸術文化活動を活性化

3. 困難を抱える家庭等へのきめ細やかな対応と自立支援

- ◇子供を地域で育む環境づくり・困難を抱える子供たちへの支援【再掲】
155,896 (143,078) P5
全小学校区への放課後児童クラブと学習や体験活動を行う場の設置を促進するとともに、家庭への訪問支援等を強化
- ◇総合的な依存症対策の推進 14,008 (11,214) P59
ギャンブルやスマホなど様々な依存症に対して、関係機関が連携し、学校での予防教育や相談・医療・回復支援などの対策を総合的に推進
- ◇学校での依存症予防教育【再掲】8,773 (5,954) P10
スマートフォンやゲームへの依存予防のため、利用改善を促す運動を展開するとともに、ギャンブルを含む様々な依存症に対して、学校での予防教育を推進

海洋プラスチックごみ対策

令和2年度：35,534千円
(5,993千円)

現状・課題

プラスチックごみが海洋へ流出し、生態系を含めた海洋環境への影響、船舶航行への障害、観光・漁業への影響、沿岸域居住環境への影響が発生

ポイ捨て防止対策が必要

① 和歌山県ごみの散乱防止に関する条例(仮称) **新規**

- ポイ捨ての防止、ごみの適正処分や減量化などの教育・啓発を実施
- 環境監視員によるポイ捨ての監視やごみの回収命令など監視体制の強化
- ポイ捨てを行い、ごみの回収命令に従わない者には、罰則を科す

② 監視・防止体制の強化 **拡充**

- 環境指導員・環境監視員の増員
- 監視カメラ100台増設や道路異常等情報システムの活用等

③ 問題への関心を高める啓発・活動

- わかやまポイ捨て防止強調ウィークの制定（一斉清掃活動の実施） **新規**
- シンポジウム・全国大会の開催 **新規**
- 効果的なごみ箱の設置促進
- マイバッグやマイボトルの持参を推進

水道の基盤強化に向けた取組

令和2年度：352,527千円
(872,794千円)

「県水道ビジョン」(令和元年6月策定)

人口減少に伴う水需要の減少、水道施設等の老朽化、自然災害への備え、人材不足等の水道の直面する課題に対応するため、水道の基盤強化に向け将来を見据えた水道の理想像を提示(基本目標)

- 1** 持続可能な水道事業の運営 **2** 安心・安全な水道水の供給 **3** 災害に強い水道の構築

～安心で良質な「水」の安定的な供給～

市町村と連携した 水道の基盤強化に向けた取組

令和2年度

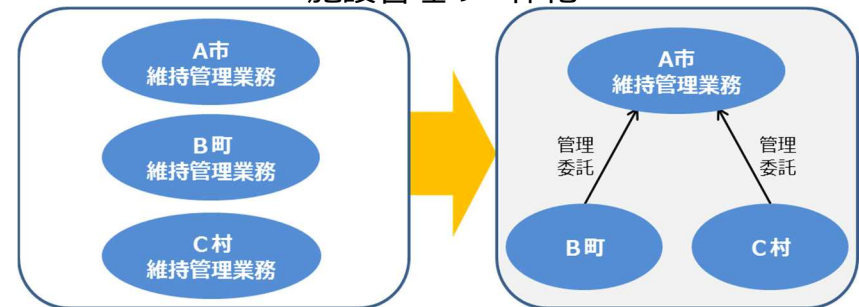
- ①「水道広域化推進プラン」を策定
水道事業者ごとの現状、将来見通しと、広域化パターンごとのシミュレーションとの比較を行い、広域化方針を決定

令和3年度以降

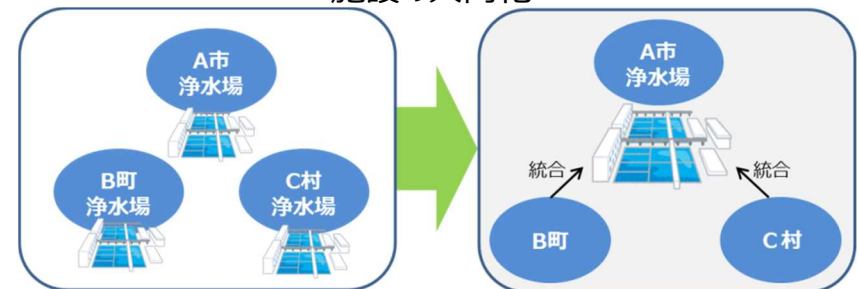
- ②「水道基盤強化計画」を策定
市町村同意の上、病院や避難所など重要給水施設までの配水ルートの問題抽出、これを踏まえた具体的な基盤強化策を決定
- ③水道施設の**基盤強化**を促進
施設更新、管理の一体化、施設の共同化等

「水道基盤強化計画」に基づく 上水道の基盤強化策

施設管理の一体化



施設の共同化



持続可能な汚水処理の推進

令和2年度：15,000千円 **新規**

現状・課題

- 施設等の老朽化に伴う大量更新期の到来
- 人口減少に伴う使用料収入の減少
- 職員数の減少による執行体制の脆弱化

市町村と連携した 持続可能な汚水処理の推進

新規

令和2年度

- ① 汚水処理施設の**現状調査**に基づく、
広域化・共同化に係る**効果分析**

令和3年度

- ② 「**広域化・共同化計画**」を策定
具体的な**基盤強化策**について、県及び市町村
間で合意

令和4年度～

- ③ 汚水処理の**基盤強化**を推進

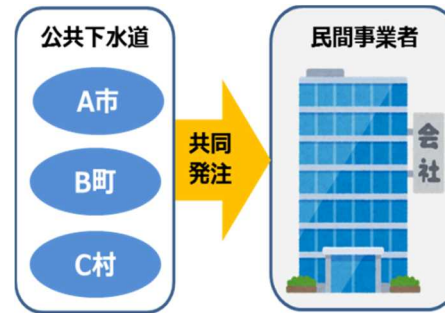
県：流域下水道 市町村：公共下水道・集落排水 等

「広域化・共同化計画」に基づく 汚水処理の基盤強化策

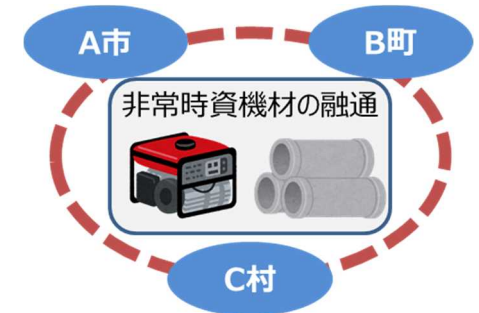
短期的な取組 (5年以内)

中長期的な取組 (10年程度)

① 維持管理の共同化



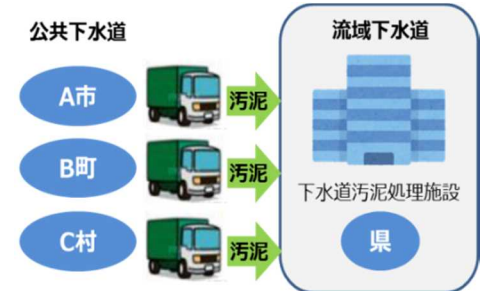
② 災害時対応の共同化



③ 処理区の統廃合



④ 汚泥処理の共同化



介護人材の確保に向けた取組の推進

令和2年度 : 165,290千円
令和元年度補正 : 140,000千円
(181,979千円)

現状・課題

- 高齢者が増加し、介護ニーズが高まっていく中、介護人材のさらなる確保が必要
(県内有効求人倍率 (R1.11)* が全職種1.34倍に比べ介護職種は3.04倍 *「職業安定業務統計」)
- 外国人介護人材の増加が見込まれる中、介護に必要な知識や技能の向上が必要

就労支援

○ 介護福祉士養成施設入学者等への貸付

【国補正を活用した継続支援】

- ・5年間勤務により返済免除
(修学資金月額5万円、入学準備金20万円
就職準備金20万円等)

○ 外国人介護人材の受入支援 **新規**

- ・介護事業所と外国人介護人材のマッチングの支援を実施
- ・外国人介護人材の業務段階に応じた研修や外国人介護人材指導者への研修を実施

○ 高校生の介護資格取得支援

- ・無料で受講できる介護職員初任者のための研修を実施

○ 福祉人材センターによる支援

- ・求職者と事業所のマッチングや相談

定着促進

○ 介護ロボット導入支援

介護従事者の離職防止のため、業務効率化や負担軽減に効果がある介護ロボットの導入を支援

(対象となる介護ロボットの例) ※出典：経済産業省・厚生労働省

① 移乗介護

介助者の抱え上げ動作の
パワーアシストを行う機器



② 見守り支援

センサーや外部通信機能を
備えた機器



③ 入浴支援

浴槽に出入りする際の
一連の動作を支援する機器



※障害者施設についても、同様の観点から支援を実施

発達障害者への地域支援強化

令和2年度：45,535千円
(28,888千円)

現状・課題

発達障害に関する認知度が高まり、県発達障害者支援センター「ポラリス」への相談が増加

〈相談延べ人数〉 約1.6倍増
㉓2,174人 → ㉔3,572人

相談体制の強化

① 県発達障害者支援センター「ポラリス」の体制強化

- 県内唯一の発達障害者支援を行う専門機関 **拡充**
臨床発達心理士、社会福祉士等の **7名体制から9名体制**へ

② 紀南地域にポラリスの「相談室」を新設 **新規**

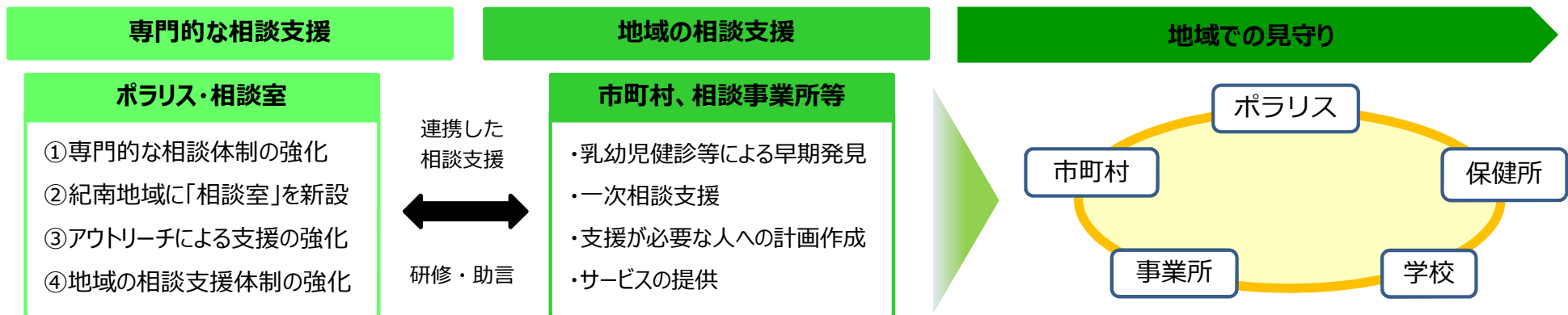
- 地域で継続した支援を行う専門的な相談支援拠点として紀南地域に相談室を設置

③ アウトリーチ(訪問による支援)の実施

- 市町村等とともに、相談が途切れた人への支援を強化

④ 地域の相談支援体制の強化

- 市町村等及び学校と連携した見守り体制の構築支援
- 地域の相談事業所への研修を実施



総合的な依存症対策の推進

令和2年度：14,008千円
(11,214千円)

現状・課題

- ギャンブル等依存症は本人のみならずその家族の日常生活などに支障を生じさせるものであり、多重債務、虐待、犯罪等の重大な問題が生じるため対策が必要
- ギャンブルやスマホなど様々な依存症に対して、関係機関が連携し、相談・医療・回復支援など総合的な対策が必要

1. 依存症予防教育・知識の普及啓発

- ① **学校での依存症予防教育** **拡充**
[スマホ・ゲーム、ギャンブル、薬物等]
 - **ストップ! スマホ・ゲーム依存**
 - ・シンポジウムの開催
 - ・家庭でのルールづくり、チェックシートによる指導
 - ・学校内での使用禁止
 - 外部講師やリーフレットを活用した依存症予防教育
- ② 県民向けギャンブル依存症フォーラムの開催
- ③ **インターネット検索連動広告**によるギャンブル依存症相談窓口の案内

2. 相談体制・医療体制

相談

- ① 依存症相談拠点の研修等による**保健所・市町村等の相談機能強化**
- ② 民間支援団体による相談会等の開催

医療

- ③ 治療拠点や**圏域ごとの医療体制の整備**
- ④ 依存症に対応できる医師等の育成

3. 関係機関の連携協力体制

- ① 行政、医療、自助グループ、司法関係などの関係機関が連携し、現状や課題を共有
- ② 研修や回復支援の機会を通して、対応力を向上

- ▶ 依存症の本人・家族等の相談や治療・回復を途切れなく支援
- ▶ 様々な依存症に総合的に対応

